

西高だより

2009年11月創刊 通算第166号



西仙北高校広報紙 Vol. 10
2023年3月1日発行

23人、いま巣立ちの時



三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三年生二十三名が自然豊かな嶋山の地を巣立ち、それぞれ新たな活躍の場へと飛び立ちます。

この三年間はコロナ禍の影響を受け、学校行事等が思うように行うことができなかつたり、部活動の大会が中止になったり、当り前の学校生活を送ることができず、心苦しい思いをする機会が多かつたことかと思えます。しかしそういう状況下でも、皆さんは「今、何をすべきか」を自らに問いかけながら、目の前のことに取り組んでいました。感染対策を万全にした上で実施した学校祭や地域の方との交流が実現した体育祭はその一例です。また、一人一人の希望を大切にしながら入念に試験対策に取り組んだ結果、全員が希望進路を達成したことも大変素晴らしいことです。

この三年間の学校生活は、皆さんをたくましく成長させた時間だったと言えます。西仙北高校で得た大きな経験をこれからの人生でも十分に発揮して、大いに活躍されることを期待しています。

表彰式

～三年間の努力を讃える～

二月二十八日(火)に表彰式が行われました。受賞者は次のとおりです。

【優等賞】佐藤羽海、藤原咲良

【皆勤賞】伊藤瑞希、熊谷唯斗、今野一希、佐藤羽海、鈴木彩乃、高屋凜太郎、田村青空、藤原咲良

【精勤賞】伊藤柚希、猪本崇人、榎陽喜、小笠原栄斗、佐々木柀次、田村大翔、細川涼

【栄光賞】佐藤朱杏

【伝達賞】

令和4年度全国商業高等学校協会

成績優秀者表彰 藤原咲良

秋田県高等学校PTA連盟善行賞

佐々木柀斗

◇三年生修学旅行◇

二月七日～十日にかけて、関西方面に三泊四日の修学旅行に行ってきました。初日は妙心寺、金閣寺、清水寺を訪問し、二日目は京都市内の自主研修、三日目はUSJで過ごし、最終日は奈良公園を訪問後、帰秋する日程でした。本来であれば二年生の秋に修学旅行となるところをコロナ禍により日程変更を余儀なくされ、通常とは異なる時期での実施となりましたが、三年生は明るく元気いっぱい四日間を過ごし、かけがえのない思い出を作ることができました。



◎二つの新たな学び◎

① 『森林の循環使用×SDGs』

に関するジョイントミーティング』
一月二十七日に実施されたこの企画は、未来に継承する森林保全の大切さを普及するとともに林業を志すきっかけづくりをするためのものです。バイオマス発電に関する講演や、本校卒業生の森山翔也さん(仙北西森林組合)が参加してのジョイントミーティング等が行われ、秋田県林業大学の紹介では、高性能林業シミュレーターの操作体験がありました。

② 『SOSの出し方・受け方教室』

二月十日に、一・二年生を対象に実施されました。講師である秋田大学自殺予防総合研究センター特任助教の宮本翔平先生からは、全体の8割の人が悩みを抱えていることや、人によって悩みやストレスの見え方が異なるという話がありました。また生徒は、意見交換やロールプレイを通じて、身近な人に助けを求めることの大切さや、悩んでいる人に適切に声をかけをして相談を受ける方法について実践的な形で学ぶことができました。

☆大綱米プロジェクト☆

プロジェクトの一環として、本校生徒が三年ぶりに綱引き行事が復活した刈和野大綱引きの関連作業に参加しました。一月二十七日は綱よい作業で、生徒は上町側と下町側に分かれ、三つの綱をねじって一本の太い綱にするものでした。約十トンの綱を一〇〇人がかりで持ち上げる作業に参加する中で、生徒は伝統の確かな重みを実感しているようでした。また大綱引き当日である二月十日の午後には綱のぼしと小綱つけ作業に参加し、綱引き直前の高揚した雰囲気の中で、自分たちの役割に真摯に取り組むことができました。

刈和野大綱引きは同日午後九時に行われ、「ジョヤサーノ」のかけ声のもと白熱したやりとりが約三十分続き、下町の勝利で幕を閉じました。これで今年度のプロジェクトは一区切りを迎えましたが、生徒は長期にわたり地域行事に関わる中で、刈和野地域やその文化への関心を大いに高めたようです。



★一年生「地域探究」★

◆調べ学習発表会◆

二月十四日に秋田大学益満ゼミ生の方々や西仙北支所の職員の方においでいただき、実施しました。

昨年十一月以降、生徒が西仙北地域に関する調べ学習を行った成果をプレゼンテーションという形式で発表しました。発表内容は食文化から地域の自然、建築まで多岐にわたりましたが、堂々と発表をする姿に、この一年での成長がうかがえました。

